

令和3年度 立川市立第五小学校経営方針

校長 藏重佳治

1 学校教育目標

- ◎よく考え進んで学ぶ子 ○自分も友だちも大切にする子
○正しく判断し行動できる子 ○体を鍛え最後までやりぬく子 ◎は重点目標

2 学校教育目標を達成するための基本方針

(1) 目指す学校像

①子供にとって達成感や自己肯定感が味わえる学校

- 授業が楽しくてよく分かる。
- 教室に自分の居場所がある。
- 学校はいつもきれいに整理整頓されている。

②教職員にとって、常に学ぶ姿勢のある学校

- お互いに切磋琢磨し、自己研鑽に励む教師集団である。
(日常的なOJT、授業を見合いたたえ合う仲間集団)
- 困難に対して、みんなで支え、励まし合える教師集団である。

③保護者にとって、安心できる学校

- 学校の教育活動がよく分かる。(情報の発信・公開)
- 子供のことで相談しやすい雰囲気がある。
- 先生方のチームワークがいい。

④地域にとって頼りになる学校

- 地域の行事に積極的に参加し、共に子供を見守り育てようとする姿勢が見える。
- 学校教育に、自分たちの力が活用されている。
- 防災の拠点としての機能が充実している。

(2) 期待する教師像(自分の目指す教師像は?)

①常に自己の授業力の向上を目指す教師

- 教材研究の時間を惜しまない。 (児童が授業に乗ってこないのを、児童のせいにならない)
- 教科書の内容を踏まえながらも、身近な生活(日常)の中から、教材化を図る努力をする。
- 授業の振り返りを行い、明日の授業の糧とする。 (マンネリ化しない)

②児童との触れ合いを大切にする教師

- 愛情を持って児童と接し、常に児童理解に努める。(褒めて育てる。)
- 毎日児童を温かく迎え入れ、児童の少しの変化(変容)も見逃さない。

(電話で済まさない、すぐに面談・家庭訪問を)

指導・支援のタイミングを見逃さず、その場ですぐに対応する。

○児童とのよい距離感を保つ。

(全教職員の共通理解・共通実践を)

車の車間距離のように、近すぎるとぶつかり、離れすぎると間に割り込まれる。常に教師と児童の立場をわきまえた関係を築く。

※ 児童には「○○先生」と、教師は児童一人一人を尊重した呼称に心がける。

○児童の人権には細心の注意を払うとともに、一人一人を大切にされた指導を行う。

生活指導の基本であり、ここから信頼関係は構築される。教室環境や掲示物のコメントなどにも、細心の注意を払う。また、教室や職員室など整理整頓は、教師自らがお手本となるよう心掛ける。

○保護者とともに児童を見守り・育てる姿勢を忘れない。

学校での児童の様子は、定期的な学級通信で保護者に伝える。また、保護者からの問い合わせにも、思いを受け止めながら傾聴（聞き上手）する姿勢に心がける。

事故・けが・学級内のトラブルも、児童から保護者に直接伝わる前に、一報を入れる。

○組織の一員としての自覚を持ち、チームとして助け合い協働できる。

自分の学級のみならず、同学年や他学年との連携を図りながら指導を行う。また、児童に関する情報を、学校全体で共有することで、チーム一丸となって指導に当たる。

○地域の行事に積極的に参加する。 (地域が皆さんを守ってくれます)

学校だけではなく、地域における児童の様子にも触れることで、多面的に児童を捉え、指導に生かす。また、地域の人材との触れ合いを通して、学校・家庭・地域が一体となった地域協働体制を構築する。

③率先垂範

○きれいな学校環境（大規模改修工事）にある第五小を維持するためにも、自ら率先して整理整頓の実施を。職員室の机上整理 教室の教卓周辺 掲示物 児童の持ち物管理

○教師自ら進んで「あいさつ」の励行を。五小あいさつレベル10を目指して

④教育公務員としての自覚を持ち、常に指導技術の向上を目指す教師

○常に授業改善に取り組む。(今日とはちがう明日を目指して)

・基礎的・基本的な学力の定着を目指す。児童の意欲や好奇心をかき立てる授業を工夫する。

意図的・計画的な授業を進める・・・週案には、毎時間のねらいや主な活動・授業改善の視点及び反省を記録する。 ※週案は、その週の金曜日、または翌週月曜日には提出する。

・自ら積極的に自己研鑽の場を求める。

(校内研究、校内 OJT、立小研等、都研、教師道場、都区市町村研究発表会)

・先輩・同僚の助言を素直に受け入れ、次の指導に生かす。(日常的な授業公開)

○教育公務員として期待に応えられる教師

(服務事故は絶対に起こさない)

・全体の奉仕者としての自覚と責任をもつ。

・法令を順守し、いつでも説明責任が果たせる。(情報の管理運営)

・組織の一員としての自覚があり、行動できる。

・節電を含めた、管理運営上の無駄をはぶく。(教材・教具・公共料金)

・個人情報取り扱いには細心の注意を。

・ツイッター・ブログなどの媒体への安易な書き込みはしない。

○危機管理意識の高い教師

- ・ 普段から、報告・連絡・相談（ほうれんそう）を意識する。（適切な初期対応）
- ・ 組織的に対応をし、早期解決ができる。（一人で抱え込まない）
- ・ 未然防止の手立てを打っている。
（児童・保護者との信頼関係の構築、常に記録をとる習慣を身に着ける）
- ・ 地域の防災拠点としての役割を担っているという意識を常に持つ。

⑤授業を通して（学力の向上のために）

○学習規律の確立

- ・ 授業では、「礼」で始まり、「礼」で終わる。45分授業を保障し、休み時間に食い込まない。
- ・ 授業中の発言の仕方や名前を呼ばれたら返事をする。「はい・たつ・です」
- ・ ノート指導の充実
（ノートを見ると、授業の展開・児童の思考の流れが分かる・・・板書との関連）
- ・ 教室移動は教師が引率する。（特に専科教室へは、必要な引継ぎ事項もしっかりと伝える）
- ・ 家庭学習を習慣化させ、基礎基本の定着を図る。（学年×10分）

○タブレットPCの活用

- ・ 児童に配布したタブレットPCを授業に有効活用し、学習効果を高める。
- ・ 欠席児童に対しても、授業内容を適宜配信し、学習支援に充てる。

○校内研究・研修（OJT）

- ・ 校内研究では、日頃の授業を通して学び合う姿勢で取り組む。
（公開授業の時だけでは、意味がない。）
- ・ 都の研修・区市町村研究発表会等、自己の研究課題に沿った内容については、積極的に参加する。（可能な限り支援体制をとる）
- ・ 予定された研修の場（OJTなど）だけではなく、校内（職員室・教室・会議室等）では、常に児童を中心とする情報交換の場として、お互いを高め合う。

○特別支援教育の充実（組織的な教育相談体制の確立）

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育の校内体制の充実を図る。
支援の必要な児童には、「個別指導計画」を作成し、誰もが共通した支援ができる環境を作る。

○体験的な活動の効果的な活用

- ・ 地域人材を効果的に活用し、第五小オリジナルの教育活動を実践する。
- ・ 生活科・総合的な学習の時間・特別活動など、地域の人材・地域の教材を各学年の年間指導計画へ位置づけ、発達段階に沿った学習展開を行う。

○高学年教科担任制の実施

- ・ 教科の専門性を磨き、児童の興味関心を抱く授業を提供する。
（教材研究と授業の振り返りを通して）
- ・ 中学校へのスムーズな接続のために。

⑥生活指導を通して（児童の健全育成のために）

○人権尊重教育推進校を経験した学校として、児童の人権には最大限に配慮する。

- ・ 道徳の期間や普段の学校生活全般を通して、他人（お友達）を思いやる心、またそうした立ち

振る舞いが自然とできる児童の育成を行っていく。

○基本的な生活規律の確立と共通実践

- ・朝ごはんをしっかりと食べてくるよう声かけをする。
- ・朝の出会いを大切に、「あいさつ」の励行。教師の率先垂範から。
- ・学校のルールは、全員で共通実践する。(校庭の使用、遊具の管理、ろうかの歩行、職員室の入室の仕方等)

○スクールカウンセラーを中心とした教育相談体制を一層の充実

- ・スクールカウンセラーを活用した、いじめ・不登校の未然防止。
- ・学校だけでは解決の難しいケースには、社会福祉士との連携も視野に入れた対応も行う。

⑦安心・安全のために

○週番による校内の見守り

- ・危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援
- ・中休み・昼休み後の昇降口の扉を閉めるなど、児童の安全管理には十分に対応していく。

○災害時の地域と学校との連携の仕方を明らかにする。(市指導課・防災課との連携)

- ・災害時の学校の体制と役割の明確化、市教委(指導課・防災課を含む)、PTA、各自治会との連携を図る。

(3) 今年度、具体的な取り組みとして

よく考え 進んで学ぶ子をめざして

① 校内研究(算数少人数指導の充実)

少人数担当教諭と各学年が、児童の習熟度に合わせた課題設定をし、立川スタンダードに沿った授業展開を行う。また、学習課題の提示、解決に向けた支援等、よりテーマを焦点化しながら、研究を進める。

② 高学年教科担任制

児童の主體的・対話的で深い学びを実現するために、児童一人一人の個性や能力に応じた指導方法・指導形態の工夫・改善を行う。高学年は教科担任制を実施する。

③ 外国語・外国語活動の充実

専科教員を配置し、より専門性のある授業を通して、児童の学習に対する興味関心を引き出すと共に、学習効果をあげていく。

④ 読書活動の充実

自分の考えや思いを豊かに表現できる力を育てるためにも、読書週間、保護者や地域協力者、地域図書館と連携した「本の読み聞かせ」や「語り」「アニメーション」などの多様な読書活動を通して、文章に触れる機会を増やしていく。特に「朝読書」に重点を置き、発達段階に応じた図書を、年間を通して読み味わう中で、思考力や表現力を養う。

自分も友だちも大切にする子 正しく判断し行動できる子をめざして

① 道徳授業の充実

道徳の時間の充実を図る。特に、道徳教育推進教師の師範授業などを通して、資料の提示方法

や役割演技などを含めた多様な学習活動や発問等、道徳の授業における「型」を統一し、学校全体の授業の質の向上を図る。また、学年内でローテーションを組み、一人の教員が、教材研究した題材を全学級で授業を実施するなど、お互いに意見交換できる場を設定する。

⑤ 特別支援教育 ユニバーサルデザイン化の浸透

本来「わかる・楽しい授業」とは、発達障害のある児童も含め、全ての児童が理解し、わかる喜びを味わいながら学習を進めていくことに他ならない。学習環境や指導方法を統一し、児童一人一人が安心して学習に取り組める環境整備を行っていく。

体を鍛え最後までやりぬく子をめざして

① 体育 コーディネーショントレーニングの浸透（本校の財産として）

今年度も体幹を鍛え、運動学習能力を養う。体育の授業の導入の5分間の取り組みで、「脳」と「身体」に刺激を与え、単に動く（運動）ことにとどまらず、完成・知性の発達をもつなげる。